

基礎的野菜品目の生産拡大

大津・南部農業農村振興事務所

【普及活動のねらい・対象】

J Aおうみ富士ではファーマーズマーケットおうみんち(以下、おうみんち)において、周年的に販売実績があるキャベツやたまねぎなどの基礎的野菜品目を推進品目とし、新規栽培者の育成や出荷者の所得向上をめざして作付け拡大に取り組んでおられます。

当課としても、おうみんちに出荷する生産者や集落営農組織などを対象に、生産者の掘り起こしから作付け推進を行うとともに栽培技術指導を中心とした活動支援を行いました。

【普及活動の内容】

まず、J A管内の3営農(守山・中主・野洲)センターで、作付誘導のため、市場関係者と種苗会社と連携して研修会を開催する一方、個別訪問による掘り起こしを行いました。J Aでは作付推進のため、畝立て成形機とキャベツ定植機を導入されました。導入初年ということもあり、管内苗生産農家による一括育苗や最初に定植されるほ場での畝立て機や定植機の取り扱い説明会を開催してもらうよう働きかけ、省力化と生産の安定化を図りました。

また、生産資材を安価に提供できるよう購買担当者と連携し、販売担当課には早くから販路を確保してもらうよう働きかけ、急な栽培希望者でも取り組みやすい生産受入れ体制づくりをしました。

キャベツ、たまねぎなどの推進5品目については、栽培ごよみを作成し、研修会の啓発資料



機械メーカーによる取り扱い講習

として配布したり、栽培を希望される場合は拡大カラー版を配布することで作付拡大を図りました。特に、キャベツ栽培においては、定植が最も早いほ場でフェロモントラップによるハスモンヨトウの発生予察やその他病害虫の発生動向をみて、効果的な防除が実施されるよう情報紙を作成し、タイムリーに指導できる体制を整えました。

【普及活動の成果】

本活動の結果、春にんじん 25a(10戸)、キャベツ 100a(12戸)、たまねぎ 40a(5戸)、さつまいも 85a(10戸)、なばな 60a(2戸)、春じゃがいも 7a(1戸)で新規に取り組み、無事出荷に至りました。キャベツにおいては、新規作型への取り組み、規模拡大や栽培者の増加が見込まれます。また、次年度の参考となる防除などの栽培技術体系を検討することができ、安定生産へのコツを掴むことができました。これらの結果は栽培ごよみへ反映させ、さらなる普及拡大に繋げていきます。